

新型コロナ禍自粛中 いかがお過ごしでしたか？



白井 互 ('72年卒)

『コロナ禍の為2月12日以降の会合等は当面休止』の報せ以来すでに8ヶ月経過。引き籠り生活の何とも言えない居心地の悪さの中で如何に過ごせば良いのか。まず感染しないように振舞うこと。規則正しい生活で健康に留意すること。家財の整理整頓など。比較的無難な外出先と思ひ、住居近辺の史跡などをマイカーで訪ねる事を習慣とし、その魅力を新発見。1月初旬に6種類のユリの球根を植え、6~7月にかけて順次迫力ある大きな花が見事に咲き誇った。特にイエローダイヤモンドの色の鮮やかさが、重苦しい状況を一掃する源であったことは忘れられない。

里見文雄 ('65年卒)

居酒屋などの外食が無くなっただけで、本を読んだり自転車で出かけたりと、生活に大きな変化はありません。台所で料理をするのは少し頭を使うのでボケ防止になるというのは本

当です。グーグルで検索すると料理自慢の人が多くて、参考になります。作るもので好きなのは、生姜ご飯、サツマイモ豚肉巻き煮、鮭の西京漬けムニエルなど。家族に受けがいいのは鶏牛蒡ご飯、芋餅、ツイストドーナツ(揚げパン)です。お勧めは燻製作りで、チーズ、蒲鉾、玉子あたりは酒のつまみにピッタリ。特別な道具は必要なく、ステンレスのボウルが2つあれば作れます。

上田桂子 ('64年卒)

秋も深まりつつあるこの時期、昨年迄の同窓会の活動、セミナー、公開講座等を思い出しました。充実していました。今年度はコロナ禍のため、全ての活動が中止となり、それならばと家中の片づけ、食器棚の整理、雑草の茂みの除草、独立した子供達の部屋の片づけ、また読みかけの『背教者ユリアヌス』の下巻を読み終える事等々の遠大な計画を立て、コロナニュースを聞き流しながら取り

組んでいます。コロナ後は今迄の世界には戻れないと言われていますが、地球を汚し、覇権を争い、国境での数々の紛争等に、神様のお叱りのコロナ禍かもしれません。

大滝珠実 ('81年卒)

自粛中は新たなことへの挑戦、視野を広げる絶好の機会と捉え、新しいレシビヤピアノ曲への挑戦、Zoomデビュー、ネットでの芸術鑑賞、読書等々で実りある時を過ごしました。また、こういう時だからこそ、心と心の絆、温もりの大切さを痛感し、親戚や友人と電話や手紙で心を通わせました。

まだ先が見通せない状況ですが、心身ともにコロナに負けぬよう“The night is long that never finds the day”という『マクベス』の言葉を心に唱えつつ、時には“Whatever will be, will be”と肩の力を抜いて、日々前向きな気持ちで心豊かに過ごしていきたいと思っています。

『若草物語』を編訳して (1)

小松原 宏子 (旧姓 荒井 '83年卒)

同窓会報の43号に、白井澄子先生の「わたしの好きなヒロイン ジョー・マーチ」という素敵なお記事を見つけました。何度も読み返し、それからスキャンしてメールに添付しました。

送った先はマサチューセッツ州コンコードのオーチャードハウス。『若草物語』の作者、ルイザ・メイ・オルコットが暮らした家であり、現在は記念館となっている場所です。私はここを2017年と2019年に訪れました。そして、2014年に編訳出版した、学研の「10歳までに読みたい世界名作シリーズ」5巻『若草物語』と、その韓国語版を寄贈し、ルイザの部屋におさめていただくことができました。

昨年夏に私を迎えてくれたのは館長のJan Turnquistさんと、日本人スタッフの喜久子・ミルズさん。喜久子さんに館内を案内していただいた時間を除けば、お二人と一緒に過ごしたのは正味30分足らずであったかと思うのですが、瞬間に意気投合し、まるで昔からの友達であるような気持ちになりました。そして、その感覚は

今も続いている---いえ、むしろますます強く感じられるようになってきました。

初めは、コロナが私たちを隔てるかと思えました。「また来ますね」という約束がいつになるか全く見えなくなったからです。けれど、館が閉鎖されてからのJanの行動は迅速でした。彼女はすぐに日曜ごとのfacebookライブを始め、オーチャードハウスのバーチャルガイドや、ルイザに関わる人々の紹介、そして白井先生の記事にもあった今年公開の映画『ストーリー・オブ・マイ・ライフ わたしの若草物語』の撮影こぼれ話などを、次々と配信したのです。閉館により収入の道が絶たれた

オーチャードハウスには、Janのライブを見た世界中の人々から寄付が集まりました。このライブには喜久子さんも2回登場し、上皇陛下ご夫妻がコンコードを訪れた時のことや北海道七飯町との姉妹都市15周年記念式典のようなどをわかりやすい英語で語っておられました。

Janの日曜ライブは館の再開まで続けられます。Orchard HouseのHPでアーカイブも見られます。

<https://louisamayalcott.org/home>

ライブの感想を喜久子さんに伝え、語り合うのが今の私の楽しみです。コロナはいつか終わるべきものですが、コロナゆえに繋がった絆には、終わりはないに違いありません。

〔児童文学の創作・翻訳
自宅家庭文庫「ロールパン文庫」主宰
中・高・大学の講師〕



Orchard House



Jan Turnquist & Little Women